

第12節 図書館および図書・電子媒体等

【到達目標】

本学附属図書館は、本学の理念の実現を図るため、学生・教職員の教育研究を支援する施設としての機能を果たすことはもとより、県民及び地域社会に開かれた大学として、県民の生涯学習や文化の向上に貢献する役割を担っている。

そのため、附属図書館においては下記の事項を図書館運営に関する主要な目標として定めている。

- ①最新の研究内容や利用者のニーズに即した偏りのない収書方針を策定し、図書資料の収集・蓄積を行う。
- ②学生の夜間の利用に配慮した図書館の開館時間を設定する。
- ③電子ジャーナルの導入、インターネットを介した有料のコンテンツサービスであるWeb版データベースの整備等利用機能の電子化を図る。
- ④自習室など学生の自習を支援する設備・環境を整備する。
- ⑤図書館を地域に開放し、学内に蓄積された図書・学術情報、研究成果を公開する。
- ⑥図書・雑誌にかかる継続購入の見直しや除籍作業を定期的に行い、図書収容スペースの確保を図る。

佐世保校附属図書館

(図書、図書館の整備)

【現状の説明】

佐世保校附属図書館は、学部や学科の教育研究支援、地域住民の生涯学習、文化の向上等に貢献するため、収書方針に沿った体系的な選書など、図書館機能の充実と利便性の向上に努めている。

a) 施設

現在の図書館は、図書情報センターとして平成8年9月に開設され、平成20年度の大学統合を機に佐世保校附属図書館へ名称を変更した。図書館の構造、規模等は、鉄筋コンクリート造り4階建てで総延床面積は4,099㎡であり、館内の1階は、玄関ホール、受付（インフォメーション）、国際交流室、ブラウジングコーナー、新聞閲覧コーナー、地域学習室（一部アカウンティングプログラム学習室）、それに多目的ホール（174㎡）からなっている。多目的ホールは210席とステージからなり、座席は全席収納可能で、講演会はもとよりフロアとしても利用が可能である。2階には受付（カウンター）、事務室、館長室、閲覧スペース、参考図書、AV、インターネットの各コーナー等がある。3階には、新聞閲覧、ブラウジングの各コーナー、閲覧スペース、2つのグループ学習室、開架書庫、製本準備室等がある。4階には、閲覧スペース、個人閲覧・自習室（7室）、東アジアコーナー、開架図書・製本雑誌・バ

ックナンバー書架、マイクロ資料室、集密書庫、倉庫等がある。閲覧座席数は340席であり、これは、経済学部と経済学研究科を合わせた学生収容定員（1,824人）の18.6%にあたる。

事務室(80.4㎡)は図書館2階にあり、館長室、受付(カウンター)、作業整理室等を合わせると197.04㎡である。

開館時間は、平成20年4月1日以降、平日は8:30～22:00、土曜日は9:00～17:00である。長期休業中の開館は、平日・土曜日とも9:00～17:00である。休館日は、①日曜日、②国民の祝日に関する法律に規定する休日、③本学開学記念日(6月4日)、④蔵書の点検及び曝書に必要な期間、⑤その他法で定められた休日である。

なお、年間の開館日数は表12-1-1のとおりである。

表12-1-1 開館日数

年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
開館日数	286	278	289	290	286

佐世保校附属図書館が保有する情報機器の種類・台数及び視聴覚機器の種類・台数は、表12-1-2のとおりである。各階にOPAC(オンライン蔵書目録)検索用端末を設置して、利用者の便宜を図っている。

表12-1-2 情報検索機器の種類・台数及び視聴覚機器保有台数(平成20年3月31日現在)

機器名	台数	機器名	台数
検索用端末	7	入退館管理システム	1
タッチパネル	3	ファイル転送装置	1
図書館業務用端末	6	デジタルイメージプリンター	2
カウンター用端末	2	ビデオレコーダー	6
業務用ノートパソコン	2	CD・LDプレーヤー	9
個室用ノートパソコン	3	DVDプレーヤー	6
多目的ホール用ノートパソコン	1	テレビ	7
インターネット情報検索端末	10	イメージスキャナ	1
CD-ROMサーバー	2	カセットプレーヤー	5
CD-ROM端末	3	ビデオ編集機	1
案内表示システム(プラズマ)	2	プロジェクター	2
高速多機能デジタルカラー複写機	1	ヘッドホン	30
蔵書点検装置 (ハンディーターミナル)	6		

b) 図書・学術雑誌・視聴覚資料

佐世保校附属図書館の前身である図書情報センター設立以後の積極的な予算措置によって、比較的短期間で他大学の図書館並の蔵書数に到達することができており、現在では、年間約6,500冊ずつ蔵書を増やしている。それらの図書収集の基本的方針として、平成17年度に収書方針を策定した。それに基づき、図書館職員と各学科の教員の協力を得て、基本図書、参考図書、一般図書（教科、専門）、大学院図書など多くの区分を設け、選書が偏らないよう配慮し、図書資料の多様性を確保している。また、学生の図書への関心を高めるため、学生が直接に書店に出向き、図書館で購入する本を選択する「選書ツアー」を平成19年度から実施している。

表 12-1-3 図書・製本図書雑誌の年度別受入状況 (単位：冊)

区 分	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度
和 書	6,580	4,911	5,350	4,115	5,263
洋 書	2,754	1,655	738	783	886
製本雑誌 (和書)	235	325	444	446	286
製本雑誌 (洋書)	257	171	458	485	180
合 計	9,826	7,062	6,990	5,829	6,615

平成19年度末の所蔵冊数は261,958冊であり、その内訳は表12-1-4のとおりである。一般教養分野における書籍も利用者のニーズに応じうる所蔵の状況となっているが、佐世保校が経済学部及び経済学研究科のキャンパスという観点から特筆すべき点として、NDC（日本十進分類法）分類を見ると、300（経済・法律・政治・社会・教育）及び600（産業・商業）に分類されている蔵書数割合が高いことがあげられ、これは研究図書を除く蔵書253,612冊の55.6%にあたる。他方、自然科学、工学分野は全蔵書数の8.9%である。また全蔵書数の72.5%が和書である。

表12-1-4 佐世保校附属図書館蔵書数

(平成20年3月31日現在)

N. D. C.	区 分	図 書 総 数			備 考
		和書(冊)	洋書(冊)	合計(冊)	
000	総 記	15,301	4,489	12,790	
100	哲 学	8,640	2,378	11,018	
200	歴 史	13,688	4,762	18,450	
300	経 済・法 律	52,297	28,696	80,993	
	政 治・社 会・教 育	29,310	7,504	36,814	
400	自 然 科 学	10,743	2,234	12,977	
500	工 学	8,088	1,436	9,524	
600	産 業	5,136	890	6,026	
	商 業	11,653	5,541	17,194	
700	芸 術・体 育	4,418	305	4,723	
800	語 学	8,378	5,109	13,487	
900	文 学	15,919	6,697	22,616	
研究図書	分 類 未 実 施	6,256	2,090	8,346	
合 計		189,827	72,131	261,958	
指 定 図 書		2,076	112	2,188	(再掲)
東 ア ジ ア コ ー ナ ー		5,284	1,297	6,581	(再掲)
学 術 雑 誌		383	446	829	

附属図書館の図書収容可能冊数は約30万冊であるが既に収容限界に近づいている。そのため、図書除籍方針に基いた計画的な除籍を行ったり、収蔵図書内容や施設内収蔵レイアウトなどについて図書館と事務局で検討を行うことで、図書収容スペースの確保に努めている。なお、平成18年度には図書見直しと整理を行い、4,372冊の除籍を行っている。

学術雑誌の購読継続の見直しについては、平成17年度に地域政策学科が設置された際に電子ジャーナル導入に向けてのワーキンググループを立ち上げ、その中でジャーナルの必要性や予算内での選択、冊子体の内容と重複する分の扱いについて議論を重ねた。その結果、平成18年度から電子ジャーナルを導入し、現在では7種類(約9,080タイトル)の利用が可能となっている一方、雑誌の受け入れは表12-1-5のとおり減少している。

表 12-1-5 学術雑誌の受入状況（寄贈を除く）（単位：冊）

区分	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
和雑誌	299	289	302	263	284
洋雑誌	313	295	286	282	195
合計	612	584	588	545	479

平成19年度末の視聴覚資料の所蔵点数は、表12-1-6のとおり7,090点である。マイクロフィルム・マイクロフィッシュ、CD・LD・DVD、ビデオテープ項目が最も多い。DVDの映画教材等は学生の利用度も高く、学生の教養を高めるための視聴覚資料としても機能している。年度別受け入れ状況は、表12-1-7のとおりである。ビデオテープの受け入れが減少し、CD・DVDの受け入れが増加している。AV資料や情報関係資料は学内のAV資料室や情報処理システム室でも収集が行われている。

表 12-1-6 視聴覚資料所蔵点数（平成20年3月31日現在）

種類	点数
マイクロフィルム・マイクロフィッシュ	1,920
カセットテープ	74
ビデオテープ	1,388
CD・LD	1,684
レコード	12
映画フィルム	0
スライド	1
CD-ROM	513
DVD・その他	1,498
合計	7,090

表 12-1-7 視聴覚資料の年度別受け入れ状況

区分	マイクロフィルム	マイクロフィッシュ	カセットテープ	ビデオテープ	CD・LD	レコード	映画フィルム	スライド	CD-ROM	DVD	合計
H15年度	118	1	0	77	88	0	0	0	41	174	499
H16年度	308	2	1	52	75	0	0	0	41	159	638
H17年度	72	1	0	78	116	0	0	0	55	166	488
H18年度	40	0	0	4	129	0	0	0	42	290	505
H19年度	0	0	0	21	62	0	0	0	37	195	315

c) 図書館利用状況

過去5年間の入館者数の推移は、表12-1-8のとおりである。平成17年度から19年度にかけての図書館利用者は76,000人台～84,000人台を推移している。平成19年度の図書館利用者は84,627人で、そのうち学内利用者が81,239人(96.0%)であり、学内利用者のうち98.3%が学生である。学外からの利用者は3,388人(4.0%)と少ないが、地域に開かれた図書館として活用してもらうため、平成18年度からは図書館主催の講演会を開催するなど学外者の利用促進に努めている。

表12-1-8 入館者数の推移

(単位：人)

区 分		H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
学内	学 生	70,259	68,620	70,324	77,288	79,897
	教職員	1,120	1,004	964	1,162	1,342
	計	71,379	69,624	71,288	78,450	81,239
学外	県民	3,149	3,287	5,143	4,282	3,388
	計	3,149	3,287	5,143	4,282	3,388
合 計		74,528	72,911	76,431	82,732	84,627

表12-1-9で月別の開館日数と入館者数及び1日平均入館者数に関するデータを見てみると、図書館が最も多く利用される月は7月と1月である。これは学生が定期試験の準備のために図書館を活用しているためと思われる。11月の利用数が伸びた要因としては図書館主催の文献ツアーの実施や、課題に取り組む学生の利用が多いことが挙げられる。一方、利用が少ないのは9月と3月であるが、これは、夏季休暇期間中と冬期休暇期間中であるためと思われる。

表12-1-9 月別開館日数・月別入館者数・一日平均入館者数

月	開館日数（日）			月別入館者総数（人）			一日平均入館者数（人）		
	H17年度	H18年度	H19年度	H17年度	H18年度	H19年度	H17年度	H18年度	H19年度
4	25	24	24	5,714	9,970	10,499	228	415	437
5	23	24	24	5,931	11,360	11,766	257	473	490
6	25	25	25	8,335	11,779	11,586	333	471	463
7	26	27	26	17,441	19,511	19,885	670	722	764
8	27	28	28	2,518	10,339	10,514	93	369	375
9	24	24	23	2,052	4,833	4,513	85	201	196
10	25	25	25	7,809	9,576	11,564	312	383	462
11	23	23	22	10,469	9,691	10,958	455	421	498
12	23	23	23	8,374	8,966	8,834	364	389	384
1	22	22	21	11,991	14,832	14,915	545	674	710
2	22	22	22	10,504	9,232	7,657	477	419	348
3	24	23	23	2,412	1,784	1,413	100	77	61
計	289	290	286	93,550	121,873	124,104	326	417	432

d) 館外貸出

館外貸出の上限冊数と期間は、一般図書について教員が50冊まで6ヶ月以内、非常勤講師が20冊まで1ヵ月以内、学生が5冊まで2週間以内、大学院生が20冊まで1ヵ月以内、研究生が10冊まで2週間以内、県民が3冊まで2週間以内である。また教員には、これとは別に製本雑誌5冊まで1ヵ月以内の貸出が認められている。さらに夏、冬、春の長期休暇中や特別の研究のために必要と認めたときは、館長は、上記の冊数及び期間を超えて図書の館外貸出を認めることがある。

表 12-1-10 利用者別年間貸出数

区分		H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
学 生	人	10,664	9,973	10,280	11,393	11,927
	冊	21,817	19,921	20,661	22,990	24,319
教職員	人	662	424	367	548	577
	冊	2,774	1,375	1,728	2,020	1,874
県 民	人	492	760	943	962	765
	冊	1,001	1,544	1,984	2,190	1,705
計	人	11,818	11,157	11,590	12,903	13,269
	冊	25,592	22,840	24,373	27,200	27,898

表 12-1-10 により利用者別の貸出状況を見ると、学生への貸出は人数および貸出冊数とも近年上昇しており、平成 19 年度は延べ 11,927 人に 24,319 冊を貸し出している。教職員への貸出冊数は若干減少している。県民の利用者数も貸出冊数も、平成 16 年度以降、大幅に上昇しているが、学生や教職員の利用への支障は生じていない。

学生一人当たりの貸出冊数をみると、平成 19 年度の全公立大学の平均が 11.5 冊であるのに対し、本学は 11.8 冊であり、平均をやや上回っている。

e) 図書整備予算について

本校の図書資料の購入に充てられている予算は、教育研究費、一般図書整備費、学術雑誌費に大別され、一般図書整備費は更に教科図書費、学生希望図書費、東アジアコーナー図書費、基本図書費、参考図書費、非常勤図書費、地域開放用図書費、大学院図書整備費、視聴覚資料費、基本電子資料費に分かれる。特筆すべき予算区分は、東アジアや東南アジア、中国、朝鮮半島関係の図書を集めた東アジアコーナーに充当される東アジアコーナー図書費である。「東アジア華人・華僑ネットワーク資料」「東アジア進出日本企業資料」「近現代東アジア国際関係資料」の三つのテーマを設け、専門分野の教員 6 名を中心とした収書を行っており、今後も長期的計画の下に特色ある内容にしていく予定である。

本学では平成 17 年度に地域政策学科が新設されたが、専門演習が始まる平成 19 年度までに新学科に関する専門図書を充実させるため、新学科図書充実費として図書館の全体予算から年額 400 万円(3 カ年計 1,200 万円)が平成 17 年度から 19 年度までの 3 年間充当された。この新学科の選書にあたっては、収書委員を中心としたワーキンググループを立ち上げ、基本方針を定めた上で選書を行った。

(情報インフラ)

【現状の説明】

a) 学術情報の処理・提供システム

図書館システムは平成9年4月1日から稼働を開始し、電算化導入時にデータベースへの遡及入力を行い、現在では約26万冊の蔵書全てをデータベース化している。また、OPAC検索用端末を各階に備え、利用者の情報検索の利便性を高めている。

平成19年度には大学統合に備え、シーボルト校と共通の図書館システムを導入したことにより、資料の貸出状況や配架場所を瞬時に把握でき、図書館利用者に迅速な情報提供が可能となっている。また、電子ジャーナルについても、平成18年度から導入している。

b) 学術機関・他大学等との相互協力状況

佐世保校附属図書館では、図書館ネットワークへの参加を積極的に進めており、N I I (国立情報学研究所) ネットワークをはじめ公立大学協会図書館協議会、九州地区大学図書館協議会、長崎県大学図書館協議会に加入している。また、大学図書館に関する各種の研修会にも積極的に参加している。

現在、本学の蔵書はインターネットを介し他大学を含め外部からOPAC検索が可能となっている。また、N I I が進めるオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース(図書/雑誌)を形成するためのシステムである「大学図書館等の総合目録データベース(NACSIS-CAT)」に平成9年7月から参加しており、本学蔵書のうち近年入力した図書データについては同研究所によっても活用されている。

また、図書館間相互貸借サービス(NACSIS-ILL)システムにも参加している。これは図書館間で行われている相互貸借サービス(文献複写や資料現物の貸借の依頼及び受付)のメッセージのやりとりを電子化したシステムで、図書、雑誌の貸出の相互協力を迅速かつ確実にを行うことが可能となった。平成18年のILL文献複写等相殺サービスへの参加以降、文献複写において附属図書館の相互協力も活発化している。なお、具体的な図書、雑誌の貸出、文献複写の相互協力状況は表12-1-11の通りである。

表 12-1-11 図書館相互協力状況

(単位：件)

種別	内 容	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度
図書・雑誌	貸出(本学→他大学等)	10	15	13	48	98
	借受(他大学→本学)	57	47	74	89	88
文献複写	依頼(本学→他大学等)	110	65	74	177	325
	受付(他大学等→本学)	15	31	28	430	517

【点検・評価】

収書については、現在基本的に収書委員会で行っているが、教科図書・指定図書・専門演習図書の選書は各専門分野の教員に選書依頼をしている。そのため教員個人の判断によるところが大きく、体系立てた収書となっていない面がある。〈到達目標①〉

また、専任教員がない科目の場合には、非常勤教員に選書依頼をしているがおのずから関連図書の選書が手薄になりがちである。〈到達目標①〉

大学院の夜間学生や地域住民の利用に配慮した開館時間の設定や、自習室の整備など、利用者の利便性を考慮した図書館運営の取組みは評価できる。〈到達目標②④⑤〉

データベースの整備に関連し、現在本学ではより良い学術情報の利用・提供システムを構築するために、「機関リポジトリシステム（学術研究成果を収集し、電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて広く世界へ発信する、新しい「電子的書庫」）の導入とその構築」への取り組みを開始しており、その運用窓口を図書館が担っている。今後大学論集のデータベース化等を随時行っていくが、これにより学術情報の提供という面で利用者の利便性の更なる向上が期待される。〈到達目標③〉

電子ジャーナルについては、平成18年度から順次導入を図り、利便性を高めているところであり、今後は、その利用状況等について検証を行うこととしている。〈到達目標③〉

図書館における学生の自習を支援する設備・環境の一つとして2階のインターネットコーナーが挙げられる。インターネット利用端末は情報処理演習室をはじめ学内に設置されているが、「情報処理関連授業があるときは利用できないこと」、「利用可能時間が20時までであること」、「図書その他資料を活用しながらの自習が可能であること」等の理由から、図書館でのインターネット利用が多くなっている。しかしながら、現在インターネット利用端末台数は10台であり、利便性向上のためには更なる端末の増設が必要である。また、現在のインターネット利用端末のうち6台は木製の個人机仕様になっているが、各机に照明がなく天候や時間帯によっては十分な照度が確保できない恐れがある。〈到達目標④〉

図書館の差し迫った課題として、書庫の狭隘化がある。平成20年3月末の蔵書数約262,000冊については、図書館内に約247,000冊、学内別棟の閉架書庫に約15,000冊を所蔵している。しかしながら、今後の受け入れ可能冊数は24,500冊（うち図書館内16,500冊、別棟の閉架書庫8,000冊）であり、新規受入分が平均年間6,500冊という状況では、平成20年度を含めてあと3.8年で収容可能冊数の限界を迎えるという課題がある。〈到達目標⑥〉

【改善の方策】

全学教育関連図書を含め、学部・学科の全体的な視点から体系立てた収書を行うため、これまでの選書方法のあり方を見直すとともに、新しい選書体制を構築する。〈到達目標①〉

学生の自習を支援するため、インターネット利用端末や照明の増設などインターネットコーナーのリニューアルを行う。〈到達目標④〉

書庫の狭隘化に伴う緊急措置として、退職教員の指定図書や古い情報処理関係図書、改定がなされた図書等を積極的に除籍し図書の収容スペースを確保するとともに、平成22年度をめどに図

書館3階のピロティ部分を書庫に改装して約15,000冊分の書架を確保する。なお、収容スペースにかかる根本的な対策については、今後も引き続き検討していく。〈到達目標⑥〉

シーボルト校附属図書館

(図書、図書館の整備)

【現状の説明】

a) 施設

シーボルト校附属図書館は平成11年4月の県立長崎シーボルト大学開学と同時に開設された。3階建ての建物でキャンパスの中央部に位置している。

1階は、図書閲覧コーナー、新聞コーナー、AVコーナーの3つに分かれている。座席は図書閲覧コーナーに28席、身障者用2席、新聞コーナーに22席ある。

AVコーナーには、ビデオ・CD・DVD等ブースに20席、閲覧コーナーに12席を配置し、また、インターネット・CD-ROM用デスクトップパソコンを5台、インターネット用のノート型パソコンを5台設置している。

また、利用者用の図書検索端末は4台(うちタッチパネル式2台)設置している。

このほかに、ラウンジコーナー(休憩用)、館長室、事務室がある。

2階には、図書閲覧コーナーや雑誌コーナーがあり、座席は図書閲覧コーナーに86席、身障者用2席、キャレルデスク(個人閲覧用机)16席、グループ閲覧室(2室)に24席、個人閲覧室(8室)に8席を設けている。その他マイクロフィルムリーダープリンター1台、利用者用の検索端末2台を設置している。

3階には、集密書庫(和・洋バックナンバー、新聞を保管)があり、キャレルデスク(個人閲覧用机)7席を配置し、自由に閲覧できるようにしている。

なお、本図書館の開館時間は、平日は8:30~22:00(但し、長期休業中は9:00~17:00)、土曜日は9:00~17:00である。(日曜・祝日は閉館)

b) 図書・学術雑誌・視聴覚資料

図書については、学部・学科、研究科の理念・目的に沿って、本附属図書館収書方針を定め、長期的な展望に立って体系的に収集し、適切な蔵書構成の実現を図ることとしている。

平成20年3月末現在の図書館蔵書数は、表12-2-1に示すように191,879冊である。その内訳は、図書172,497冊(和書85.8%、洋書14.2%)、雑誌バックナンバーの製本図書19,382冊(和書46.9%、洋書53.1%)となっている。

表12-2-2は、平成20年3月末現在の図書・製本図書年度別受入数である。平成11年度の開学から図書購入を続けており、内容の整備が進んでいる。平成16年以降の新規購入数は、図書16,095冊、製本図書3,946冊であるが、年度ごとの購入冊数は減少する傾向にある。なお、電子ジャーナルは84タイトルが利用可能である。

表 12-2-1 蔵書数（平成 20 年 3 月 31 日現在）（単位：冊）

種 類	点 数
和 書	147,968
洋 書	24,529
製本和書	9,091
製本洋書	10,291
合 計	191,879

表 12-2-2 図書・製本図書年度別受入（単位：冊）

区 分	年度	購入(A)	寄贈(B)	その他(C)	計 (A+B+C)
和 書	H16 年度	4,100	73	1,453	5,626
	H17 年度	4,622	81	267	4,970
	H18 年度	3,227	135	315	3,677
	H19 年度	2,934	241	399	3,574
	計	14,883	530	2,434	17,847
洋 書	H16 年度	395	2	578	975
	H17 年度	237	6	121	364
	H18 年度	424	4	123	551
	H19 年度	156	6	114	276
	計	1,212	18	936	2,166
製本和書	H16 年度	467	0	0	467
	H17 年度	406	0	0	406
	H18 年度	542	0	0	542
	H19 年度	260	0	0	260
	計	1,675	0	0	1,675
製本洋書	H16 年度	696	0	0	696
	H17 年度	756	0	0	756
	H18 年度	623	0	0	623
	H19 年度	196	0	0	196
	計	2,271	0	0	2,271
図 書 計	H16 年度	5,658	75	2,031	7,764
	H17 年度	6,021	87	388	6,496
	H18 年度	4,816	139	438	5,393
	H19 年度	3,546	247	513	4,306
	計	20,041	548	3,370	23,959

第12節 図書館および図書・電子媒体等

また、NDC分類法（日本十進分類法）による平成20年3月末現在の蔵書数は、表12-2-3のとおりである。

なお、平成19年度に購入した学術雑誌数は表12-2-4のとおり、平成20年3月末現在の視聴覚資料蔵書数は表12-2-5のとおりである。

表12-2-3 NDC分類別蔵書（製本図書含む）（平成20年3月31日現在）（単位：冊）

分類番号	区分	和書	洋書	合計
000	総記	8,315	1,124	9,439
100	哲学	8,665	1,533	10,198
200	歴史	10,953	1,346	12,299
300	社会科学	36,664	7,488	44,152
400	自然科学	31,949	8,880	40,829
500	工学	9,188	940	10,128
600	産業	2,394	730	3,124
700	芸術・運動	12,879	1,300	14,179
800	語学	6,491	3,603	10,094
900	文学	22,533	7,662	30,195
N分類	看護	7,028	214	7,242
合計		157,059	34,820	191,879

表12-2-4 平成19年度購読学術雑誌（平成20年3月31日現在）（単位：冊）

和雑誌	洋雑誌	合計
385	328	713

表12-2-5 視聴覚資料蔵書数（平成20年3月31日現在）（単位：タイトル）

種類	点数
マイクロフィルム	339
マイクロフィッシュ	2
カセットテープ	98
ビデオテープ	3,726
CD・LD・DVD	2,486
スライド	61
その他	323
合計	7,035

c) 図書館利用状況

ア) 図書貸出

学生の図書貸出人数及び貸出冊数は、表 12-2-6 のとおり平成 16 年度から平成 19 年度まで年度を追うごとに減少している。

一方、学外利用者については、表 12-2-7 のとおり漸増傾向にあり、およそ 3,000 人の貸出人数とおよそ 7,000 冊の貸出冊数となっている。

表 12-2-6 学生利用者 (単位：人、冊)

区 分	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度
貸出人数	12,232	11,070	9,848	9,487
貸出冊数	22,664	21,434	18,705	18,122

表 12-2-7 学外利用者 (単位：人、冊)

区 分	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度
登録者数	569	607	608	537
貸出人数	2,891	2,856	3,230	3,210
貸出冊数	6,371	6,619	7,223	6,995

イ) 入館者数

平成 16 年度から平成 19 年度までの入館者数などは表 12-2-8、12-2-9 に示すとおりである。平成 16 年度から平成 19 年度までの 4 年間では、平成 18 年度に約 17 万人と年間入館者数が最多を記録した。

月別の変動では、各年度とも夏季休暇中と春季休暇中の入館者が減少している。他方、前期試験前の 7 月の入館者数が増加している。

地域住民の利用促進のため、平成 17 年度から夏季・春季休業中のみ近隣小中学生への図書館開放を実施している。なお、高校生は地域住民と同様に常時利用可能としている。

また、平成 18 年度からは、本学の紙芝居研究会の協力を得て、地域の幼児・学童を対象に紙芝居大会などのイベントを図書館で開催している。

表 12-2-8 入館者数及び開館日数 (単位：人、日)

区 分	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度
入館者数	155,118	159,602	170,235	163,794
開館日数	281	288	287	288

表 12-2-9 月別開館日数・月別入館者数・一日平均入館者数

月	開館日数				月別入館者総数（人）				1日平均入館者数（人）			
	H16	H17	H18	H19	H16	H17	H18	H19	H16	H17	H18	H19
4	25	25	24	24	14,596	14,019	13,644	11,869	584	561	569	495
5	23	23	24	24	16,476	15,189	16,895	16,391	716	660	704	683
6	25	25	26	25	18,459	18,073	18,005	16,308	738	723	693	652
7	26	25	25	25	21,348	21,859	22,500	21,549	821	874	900	862
8	20	27	27	27	5,455	7,960	11,520	12,758	273	295	427	473
9	23	23	19	23	6,346	6,451	5,268	5,678	276	280	277	247
10	25	25	25	26	15,835	15,633	16,898	17,537	633	625	676	675
11	23	23	23	23	15,090	15,255	15,714	16,003	656	663	683	696
12	23	23	23	23	12,961	12,702	13,798	12,373	564	552	600	538
1	21	21	23	21	11,286	12,965	14,869	13,718	537	617	646	653
2	22	22	23	23	12,506	14,198	16,142	14,096	568	645	702	613
3	25	26	25	24	4,760	5,298	4,982	5,514	190	204	199	230
計	281	288	287	288	155,118	159,602	170,235	163,794	552	554	593	569

(情報インフラ)

【現状の説明】

(1) 学術情報の処理・提供システム

シーボルト校附属図書館では平成11年4月の開学時から図書館システムを導入し、学術情報を利用者に迅速かつ適切に提供している。平成18年度にシステムをE-CATに更新し、機能強化を図ったため、資料の貸出し状況、図書の所在が瞬時に確認できるようになり、図書館利用者に迅速な情報提供が可能となった。また、検索用端末を2階に2箇所、1階に4箇所設置し、利用者の図書検索の利便性を高めている。電子ジャーナルについては平成18年度から導入している。

(2) 学術機関・他大学等との相互協力状況

シーボルト校附属図書館では図書館ネットワークへの参加を進め、蔵書検索システム(OPAC)をはじめ国立情報学研究所(NII)ネットワークや公立大学協会図書館協議会、九州地区大学図書館協議会、長崎県大学図書館協議会に加入している。平成17年度は公立大学協会図書館協議会の研修会を担当し、会員の研修を企画実施した。

また、図書館相互貸借サービス(NACSIS-ILL)システムに参加しており、図書、雑誌の貸出しの相互協力を迅速、確実にしている。

【点検・評価】

図書館の施設・設備については、学生・教員、また、地域住民の利用の際にも、問題は生じておらず、適切なものであると判断できる。〈到達目標④⑥〉

資料等の収集にあたっては、図書だけではなく、ビデオ・CD・DVDの視聴覚資料や、数は少ないものの、平成18年度からは電子ジャーナルの収集も行い、資料の質的充実に努めている。

しかし、年々、図書購入予算は減少傾向にあり、学生や地域の要望や、学部間の公平性等にも配慮しながら、適切に資料収集を行う必要がある。〈到達目標①〉

開館時間を大学院の夜間学生や地域住民の利用にも配慮して行っていること、また、図書館の有する資料のデータベース化を図り、利用者用検索端末を6台（うちタッチパネル式2台）設置していること等、利用者の利便性の向上への取組みは評価できる。〈到達目標②〉

また、図書館の学外利用推進のために行う、小中学生への利用開放や地域住民を対象としたイベント開催などの取組みは評価できる。しかしながら、入館者数は、年間16万人前後で推移しているものの、学生の図書貸出人数と冊数が年々減少している。原因として、インターネットの利用拡大に伴う図書利用意欲の減退、平日の開館が22時まで延長されたため図書を借りなくても館内利用で学習目的を達せられるケースが増えたことなどが挙げられる。一方、学外者の貸出は年々増加し、特に他大学の学生や医療関係者の利用が多い。その理由としては、看護学分野をはじめ専門書や関連雑誌の蔵書が充実していることがあげられる。開館時間の延長などにより高校生を含め地域住民の利便性を図ったこと、夏季休業中等に小中学生への図書館開放を行ったことにより、地域に開かれた図書館として親近感を持ってもらえるようになったことは評価できる。〈到達目標⑤〉

開学以来、学術情報の電子化及び図書館業務のコンピュータ化に力を入れ、現在ではより効率的な情報アクセスシステムの利用が可能になっている。しかし、電子ジャーナルや国内外のデータベースについては、まだ利用範囲が制限されており、利用者からは選択肢拡大の要望がある。また、本学教員の研究成果等の資料については、現在、紀要等にまとめられ、本館に所蔵しているが、今後は、学外への情報発信のため、電子化を図る必要がある。〈到達目標③〉

【改善の方策】

図書等の資料の収集においては、限られた予算枠の中ではあるが、各学部・学科の専門性を考慮しつつ、よりバランスのとれた蔵書構成に努める必要がある。また、大学院生や留学生を含めた学生のニーズの変化、地域住民をはじめとする学外利用者の要望に対応するために、適宜、収書方針を見直して蔵書内容の改善を図っていく。〈到達目標①〉

学生の図書館利用の減少に対しては、入学時の図書館オリエンテーションや学生指導を通じて、豊富な蔵書を勉学・研究に積極的に利用するよう働きかける。また学外利用者に対しては、地域に開かれた身近な図書館としてさらに利用してもらうため、オンラインやAVコーナーの利用など図書館の多様なサービスについての広報活動を行う。〈到達目標⑤〉

現在、学術情報の電子化が全国的に推進されている状況に対応し、また、蔵書数の増加に伴い図書館施設内の所蔵スペースが限界に達することを踏まえ、学術情報アクセスの電子化を強化していく必要がある。特に雑誌等の紙媒体資料の購入予算を電子ジャーナル等の電子媒体導入の購入予算へとシフトするなどの改善を図っていく。〈到達目標③〉